

発電用に供する木質バイオエヌの証明された木材・木製品の取扱実績取りまとめ

平成30年4月1日～平成31年3月31日

	素材生産業者・原木市場・製材業者の方						チップ製造業者・製材業者でチップ販売の方										
	伐採量または入荷量(m ³)	うち間伐材等未利用材	うち一般材	発電用チップ加工向け(ト)	うち間伐材等未利用材	うち一般材	発電以外(m ³)	原材料入荷量(ト)	うち間伐材等未利用材	うち一般材	発電用所向け(ト)	うち間伐材等未利用材	うち一般材	その他向け(ト)	原材料在庫量(ト)	うち間伐材等未利用材	うち一般材
平成30年度	293,838	58,766	148,230	39,767	28,653	9,986	214,912	170,947	98,456	72,710	128,764	81,896	46,067	18,016	59,121	28,520	30,601
77社中71社分																	

コメント	素材の入荷(伐採)量は昨年度と比較して未利用材は半減、一般材は4倍以上、リサイクル材は24千m ³ 増で、合計83千m ³ の増となりました。						昨年度から未利用材の在庫が12千トン増加しています。また、一般材の在庫も25千トン増加し、在庫計は昨年度の278%となりました。原材料の入荷量は未利用材・一般材ともに倍増以上となり、合計で1.8倍近くとなりました。ただし、原材料入荷量は当会の認定でない者(全子連や県森連のように他の認定団体の認定者)からの入荷もあり、トータル入荷量の増減は分かりません。										
	一方、発電用チップ加工向けの出荷は未利用材で35千m ³ 、58%減。一般材は半減、リサイクル材を合わせ合計で58%の減となりました。	県内には当会以外の団体に認定を受けた事業者(森林組合など)があり、その数字はここに反映されていません。	また、この数字は入荷量、出荷量とも素材生産業者と市場や製材のダブル計上が多く存在します。	一方、チップ出荷量を見ると未利用材で1.5倍、一般材で1.8倍、合計で1.6倍となっており、県内の発電用チップ需要量は20万トンの内85%が県内のチップ業者から供給されたことが分かります。ただし、前にも記しましたが、原木は多くを他県から入れていることが気がかりです。	原材料入荷量と左の原木出荷量を比較すると、未利用材・一般材で約7万トンの差があり、原木での他県からの入荷が増えていると見込まれます。	一方、チップ出荷量を見ると未利用材で1.5倍、一般材で1.8倍、合計で1.6倍となっており、県内の発電用チップ需要量は20万トンの内85%が県内のチップ業者から供給されたことが分かります。ただし、前にも記しましたが、原木は多くを他県から入れていることが気がかりです。											

※昨年度末時点で原材料、出荷品の在庫があり、今年度末にも在庫があるため、入荷＝出荷とはならない。
※小数点以下を四捨五入しているため、一致しない部分がある。